

# 甲南21クリエイティブプラン・ディベロップメント 中間報告

甲南大学における持続可能な循環型キャンパスの実現を目指して  
甲南人の環境意識の向上を通じて

2005年7月27日(中間報告)  
甲南大学文学部人間科学科 谷口ゼミナール  
(代表 清見貴寛)

## 甲南21クリエイティブプラン・ディベロップメント中間報告

甲南大学における持続可能な循環型キャンパスの実現を目指して  
甲南人の環境意識の向上を通じて

甲南大学文学部人間科学科 谷口ゼミナール

### 主旨・目的

谷口ゼミでは2001年度から継続して、「甲南大学における循環型コミュニティの創造」をテーマとして、活動を行なってきた。学内においてはゴミの4分別化の実現(2001年) 摂津祭におけるリサイクル活動(5回) 環境啓発シンポジウム(計5回)の開催などを行なった。学外においては、甲南大学環境教育野外施設(広野)での自給自足生活の体験学習や野菜・米作り、また学生レベルの国際パートナーシップの構築(タイ・中国・カナダ)などを行なってきた。

そこで今年度は、「甲南大学における持続可能な循環型キャンパスの実現を目指して甲南人の環境意識の向上を通じて」をテーマとし、前年度のISO認証取得のための勉強会を踏まえた上で、近い将来におけるISO認証取得へのステップとして、「神戸環境マネジメントシステム」(以下KEMS)認証取得を目指した活動を中心にして、甲南人(学生・教職員・本学関係者)の環境意識の向上を通じた甲南大学における持続可能な循環型キャンパスの実現を目的としたい。そのために「学内の環境意識の向上を目指したKEMSの認証取得」、「甲南大学本校舎及び環境教育野外施設(広野)における環境教育活動の継続的な推進」、「甲南大学を中心とした環境教育ネットワーク構築のサポート」の3つのプランを柱として活動を行なっていく。

プラン 「学内の環境意識の向上を目指したKEMSの認証取得」では、甲南大学の運営・管理に携わっている6つの組織【学生部・財務部・甲南大学生生活協同組合(以下生協)・関西明装(株)警備部・(株)神戸エイコーサービス・(株)対馬造園店】とパートナーシップの強化を図り、「甲南大学における持続可能な循環型キャンパスの実現」に向けてKEMS認証取得を目指す。

プラン 「甲南大学本校舎及び環境教育野外施設(広野)における環境教育活動の継続的な推進」では、環境教育野外施設(広野)において伝統的農法による野菜・米作りや、本校舎でのミミズコンポストによる生ゴミ処理でできた土を活用した野菜作りを継続して行なう。また、本校舎では4R(RECYCLE・REUSE・REDUCE・REFUSE)の推進活動も行なう。このような活動により、学内外における学生及び教職員の環境意識の向上に役立てる。さらに、谷口ゼミ生による自給自足生活の体験学習では、循環型コミュニティの原型を体験することで現代生活の無駄を実際に体験し、環境意識の向上に役立てる。

プラン 「甲南大学を中心とした環境教育ネットワーク構築のサポート」では、国土交通省管轄のあいな里山国営公園(神戸市北区)における環境教育ボランティア活動で、「あいな里山」復興へのサポートを行ない、地域連携を推進する。そして、甲南大学をフォーカル・ポイントとした国内外の環境教育ネットワークの推進や、地域社会への貢献を目指す。今年度は、以上の3つのプランを柱とした活動により、甲南人の環境意識の向上を目的とし、甲南大学における循環型キャンパスの実現を目指す。

## プラン : 「学内の環境意識の向上を目指したK E M Sの認証取得」

### 1 . 環境啓発シンポジウム参加組織とのパートナーシップの強化

#### KEMS 実行委員会の設置

2002年度から2005年度に行なってきたクリエイティブプランの活動の一つである「環境啓発シンポジウム」に賛同し、協力して頂いてきた学内の管理・運営に携わる6つの組織と谷口ゼミとでK E M Sの実行委員会を立ち上げる。各組織のコーディネート・サポート役として、生協とのパートナーシップの強化をはかり、共に生協北館のK E M S認証取得を目指して7月に実行委員会を立ち上げた。今後は他の組織とも連携をとり、随時実行委員会に参加して頂く予定である。

### 2 . 6組織とのパートナーシップによる KEMS 認証取得

10月からのK E M Sによる環境負荷削減スタートを目指し、夏休み中に6組織による環境会議の準備を行なう。各組織の先駆けとして、生協北館の環境影響評価を調査し、9月からの環境会議で実際の取組みについて議論していく。

### 3 . 学生・教職員への環境意識向上のための広報活動

7月12日(水)・13日(木)に文学部人間科学科専門科目「哲学思想基礎論」、「環境学基礎論」にて210名に環境意識調査としてアンケート(別添参照)を実施した。今回のアンケートは前年度のアンケートの結果とのかねた環境意識・行動に関する質問と、学内完全禁煙に際して喫煙に関する質問を行なった。今回の調査結果を今後の広報活動に活かし、後期にとるアンケートとの比較により、環境意識の変化を調査する予定である。また、夏休み明けに教職員へのアンケートを実施する予定である。

## プラン : 「甲南大学本校舎及び環境教育野外施設(広野)における環境教育活動の継続的な推進」

### 1 . 循環型コミュニティの実践 4 Rの推進

谷口ゼミ生を中心として学内で4 R( R E C Y C L E・R E U S E・R E D U C E・R E F U S E)の推進活動を行なう。R E D U C E(減量)としてのエコクッキングについては、摂津祭でのレシピ集配布に向けて、夏休み中にエコクッキングを実践、データ収集を行なう。

R E C Y C L E(再利用)としてのミミズコンポストでは、コンポストの土を追肥として甲南大学環境教育野外施設の野菜に使用し、使用していない野菜との比較実験を行なう予定である。

## 2．伝統的農法による野菜・米作りを通じた環境教育活動

米作りは、田植えの準備として4月に田んぼをトラクターで耕し、5月に苗床作り、もみまき、田ごしらえを行ない、6月9日(金)～11日(日)に田植えを行なった。10月に稲刈り、脱穀を行ない12月には収穫したもち米を餅に収穫祭を祝う予定である。

野菜作りとしては4月22日(土) 甲南大学環境教育野外施設の体験学習フィールドにおいて土作りを行なった。畑全体にトラクターをかけ、堆肥・石灰を撒き、畝立てをした。5月13日(土)に、夏野菜のナス、ピーマン、トマト、キュウリ、サツマイモ、カボチャ、トウモロコシを植え、7月8日(土)には甲南大学の学生・尼崎北高校の高校生と共に夏野菜を収穫した。収穫した野菜はいずれもみずみずしく、非常においしくいただいた。8月の「自給自足生活の体験学習」の際にも、収穫した野菜をその場で調理して食料として使用する。

農薬を使用せずに野菜を育てるには、非常に労力があることを実感した。例えば、除草剤を使わないため雑草が多く生えてきて、頻りに畑へ様子を見に行かなければ、特に夏場は雑草抜きの作業がなかなか思うようにいかないこともあった。また、もともとは土壌がやせている為か、畑に何度も追肥をする必要がある。



夏野菜の苗付けをする受講生  
(5月13日)



甲南小学生に田植えの指導をする学生  
(6月10日)

## 3．自給自足生活の体験学習 循環型コミュニティの原型の体験

2003年度神戸市主催の「震災の教訓を踏まえて、これからの神戸の魅力づくりについて」の提言募集にて入賞を修めた「自給自足生活の体験学習」は、今年度で4回目を迎える。今年度も例年に引き続き、夏休みを利用して4泊5日で甲南大学環境教育野外施設(広野)において携帯電話や時計などを使用せず、必要最低限の持ち物で生活をする。そして、現代の生活にどれだけ無駄が多いかを実感すると同時に、日没と日の出といった自然のリズムを身に刻むことによって、現代のライフスタイルを見直す。

前年度は、保存食を利用しメニューを増やしたが、今年度はそのような工夫に加え、住環境の充実という目標を特に力を入れていきたい。具体的には、前年度に刈り取った藁を利用した藁葺き小屋の強度を高めることや、生活スペースの拡大などを考えている。

7月30日(日)から8月3日(水)までの5日間、甲南大学環境教育野外施設において、自給自足の生活を実施する。参加者は延べ19名で、5日間通して体験学習をする学生は4名を予定している。

## プラン : 「甲南大学を中心とした 環境教育ネットワーク構築のサポート」

### 1. 「あいな里山公園」(国土交通省)における環境ボランティア

6月11日(日)「不耕起農業」による米作りを行なっている「あいな里山公園」での田植えに谷口ゼミ生5名が参加した。不耕起農業とは、水田を耕さないまま農作物を栽培する農法である。苗の根が、耕していない固い土に根を張るため、稲が野生化し、冷害や風に強い太い根に変わる。それに加え、不耕起農業は、労働時間の大幅な短縮と雑草の繁殖を抑えることなど、一般的な農法よりも様々な効果が期待されている。



不耕起農業の田植え  
(6月11日)

「不耕起農業」は通常の田植えと違い、田んぼの深さは一定ではなく足元が不安定であった。また、「不耕起農業」を始めて1年目の田んぼと2年目の田んぼを比較すると、2年目の田んぼは土がより粘土質であり、カエル、クモ、アメンボなどの生物が1年目の田んぼに比べて多く生息していた。まさに、自然のビオトープであることを実感した。

### 2. 甲南大学での「地域社会への貢献プログラム」への参加

甲南大学コミュニティー・デザイン・センターへ「あいな里山公園」作りを活かした地域社会への貢献プログラム作りプランを申請し、受諾された。「あいな里山公園」での環境ボランティア活動から得たものを地域連携へ活かしていきたいと考えている。



「藍那村の歴史」講演会  
(9月9日)

後期から「あいな郷」復興のために、地元の人々に文化・伝承・地域環境をヒアリングして、そのデータをアーカイブ化する為の聞き取り調査を開始する。事前調査と勉強を兼ねて、藍那公民館に於いて行なわれた神戸大学研究員の森田氏による藍那村の歴史について講演会に参加した。